

活 用 事 例	京都市立柊野小学校	岸本直樹教諭
活用事例タイトル	イメージの広がりをサポートする ICT	
対象授業科目/活動	国語	
授業または活動の概要(目的、実施時期、授業の場合教科名や単元名、対象学年、参加人数、ICT の使用局面など)	対象学年…第 6 学年 単元名…わたしと本・森へ（光村図書） 1 2 月実施 参加人数… 3 1 名 ICT の使用局面 教材文を読んで推薦文を書く際のおすすめのポイントを考える授業である。子どもたちは表現の方法やテーマを知識として考えるが、筆者の生き方にもふれさせたいと考えた。 そこで ICT の活用で挿絵やその他筆者の作品から写真をまとめたスライドショーを作成し、筆者の生き方を見せた。 いきなり見せるのではなく、自分でテーマについて考えた後、スライドショーを見せ、もう一度テーマについて考えさせるようにした。	
ICT 活用により期待できる効果 ICT 活用のねらい	「森へ」は写真家星野道夫の文章と写真によって構成されている。もとななる書籍には教科書には掲載されていない写真がある。その写真や筆者の経歴などを一つのスライドショー形式のビデオにまとめ提示した。 ねらいは教科書の文章と写真だけでは考えにくい子どもにも要旨について考えてほしかったからであり、読書のおもしろさにもふれてほしかったからである。映像やテロップの短い文章ならすべての子どもが理解することができ、同じ土俵で子どもたちの話し合いも進められると考え ICT を活用した。	
評価、振り返り（活動の評価や児童・生徒の声など）	ICT の活用により本時の学習ではすべての子どもが筆者の生き方や作品の要旨に迫ることができた。深まりの程度に差はあるが、テキストだけでは読み深めることができない児童も話し合いの活動に参加していた。 しかし、国語科の学習としてはテキストとさし絵を手がかりとして、読んでいく力を育成したいところである。動画では教師の恣意的な思惑が色濃く出過ぎ、本当に子どもたちの力で思考して深めていったかあいまいになってしまった。	

<略案>

●本時の目標

「森へ」を読んで考えたことを話し合い、友達の見解を参考にしながら自分の考えをまとめることができるようにする。

●本時の展開

学習活動	主な発問○と予想される児童の反応・	留意点・と支援◎	評価の視点と方法
前時の学習内容の確認	○前時に学習した推薦するポイントは何でしたか。【技術】 ・表現方法 ・写真 ・五感を生かした見方	・前時に学習したことと本時の内容を混同しないように掲示する。	
筆者の伝えたいこと（要旨）【心】を考え、意見を交流して、自分の意見をまとめよう			
要旨について考えながら読む。	○作品の重要な点が書かれているところに線を引きながら読みましょう。	・デジタル教科書で示しながらやり方を押させる。	
筆者の伝えたいことは何か考える。（個人）	○筆者がこの作品で伝えたかったことは何だろうか。 ・自然の美しさじゃないかな。 ・自然保護、環境保護	・要旨を書くだけでなく、なぜそう思ったのか理由を明記させるようにする。	
筆者について知る。	○星野さんはどのような人間だったか考えよう。 ・アラスカが好き	◎理由が書けない場合はキーワードや短文でもいいことを伝える。	
筆者の生き方について話し合う。（グループ）→（全体）	・自分の好きなことをする。 ・自然が好き ・みんなに自然のよさを伝えたい ・自然のすばらしさをみんなに分かってほしい	・筆者についてのイメージが広がるようにスライドショービデオを視聴する。 ビデオ資料、年表	
協同的な学び 共有した資料から意見を出し合い、多様なとらえ方を認め合う。			
筆者の伝えたいことは何か考える。（個人）→（グループ）→（全体）	○筆者がこの作品で伝えたかったことは何だろうか。 ・人間と自然のつながりを伝えたかったのではないかな ・自然の中の命はつながっているんだということ	◎話し合いが深まるように途中で生き方についての意見を紹介するようにする。	

協同的な学び 一つのテーマについて話し合い，友達の意見に触れ，自分の考えを深める。 本時の学習をまとめる	・自然を大切にしよう ・人間も生き物のうちの一つの種類なんだ ○「森へ」の要旨は何でしょうか。自分の言葉で書きましょう。		【読む】 話し合って考えたことをもとに，作品の要旨についてまとめる。（ノート）
--	--	--	---